

作成日 1994年11月24日

改訂日 2015年08月06日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 ホクコーブラシンゾル
 整理番号 1039-16
 会社名 北興化学工業株式会社
 住所 〒103-8341
 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
 担当部門 環境安全部
 電話番号 03-3279-5151
 緊急連絡電話番号 03-3279-5151
 FAX番号 03-3279-5195
 推奨用途及び使用上の制限 農薬(殺菌剤)

2. 危険有害性の要約 GHS分類

健康に対する有害性 急性毒性(経口) 区分4
 急性毒性(吸入:ミスト) 区分4
 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2A
 生殖毒性 区分1B
 特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分2(呼吸器 心臓 神経系 腎臓 中枢神経系)
 特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分2(呼吸器 心臓 中枢神経系)

環境に対する有害性 水生環境有害性(急性) 区分3
 水生環境有害性(慢性) 区分2
 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語 危険
 危険有害性情報 H302 飲み込むと有害
 H319 強い眼刺激
 H332 吸入すると有害
 H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 H371 呼吸器、心臓、神経系、腎臓、中枢神経系の障害のおそれ
 H373 長期又は反復ばく露による呼吸器、心臓、中枢神経系の障害のおそれ
 H402 水生生物に有害
 H411 長期的影響により水生生物に毒性

注意書き
 安全対策 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)
 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)
 取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
 取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
 環境への放出を避けること。(P273)
 保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
 指定された個人用保護具を使用すること。(P281)

応急措置

飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P301+P312)
 吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P304+P312)
 吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。(P308+P313)
 ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P309+P311)
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。(P314)
 口をすすぐこと。(P330)
 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)
 漏出物は回収すること。(P391)
 施錠して保管すること。(P405)
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。(P501)

保管
 廃棄

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
 一般名

混合物
 フェリムゾン・フサライド水和剤

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|--|----------|--|----------|-----|------------|
| | | | 化審法 | 安衛法 | |
| (Z)-2'-メチルアセトフェノン=4,6-ジメチルピリミジン-2-イルヒドラゾン (別名 フェリムゾン) | 20.0% | C ₁₅ H ₁₈ N ₄ | | | 89269-64-7 |

| | | | | | |
|----------------------------------|-------|-----------------------|---------|-----------|------------|
| 4,5,6,7-テトラクロロフタリド (別名 フサライド) | 15.0% | $C_8H_2Cl_4$ O_2 | | 8-(4)-356 | 27355-22-2 |
| エチレングリコール | 5.0% | $C_2H_6O_2$ | (2)-230 | | 107-21-1 |
| 水、界面活性剤等 | 60.0% | | | | |

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、安静にし、保温する。
必要な場合は医師の診断、手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

速やかに多量の水および石鹼で洗い流す。
必要な場合は医師の診断、手当てを受ける。

目に入った場合

直ちに清浄な水で眼を洗浄し、医師の診断、手当てを受ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師の診断、手当てを受ける。
口をすすぐこと。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス、乾燥砂など。

使ってはならない消火剤

情報なし

特有の危険有害性

火災時に有害ガスが発生するおそれがある。

特有の消火方法

消火作業は風上から行う。
火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。
周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行なう。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出した場所の付近に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項

作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、飛沫、粉塵、ミスト、ガスなどによる眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

| | |
|-----------------------|--|
| 回収・中和並びに封じ込め及び浄化方法・機材 | 少量の場合、漏出液をおがくず・ウエス・砂等に吸収させてから空容器に回収する。 多量の場合、土砂等でその流れを止め、できるだけ空容器に回収し、その跡をおがくず・砂等と混合して吸収させ同容器に回収する。 |
| 二次災害の防止策 | 特になし |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | | | |
|---|----------------|---|--|
| 取扱い | 技術的対策 | 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 | |
| | 局所排気・全体換気 | 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。 | |
| | 注意事項 | 容器を転倒、落下させ、衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。 全体換気の設備がある場所で取扱う。 | |
| 安全取扱い注意事項 | 安全取扱い注意事項 | 取扱う前には必ずラベルを良く読むこと。 | |
| | | すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 | |
| | | 取扱い中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。 | |
| 保管 | 技術的対策 | 特に技術的対策は必要としない。 | |
| | 混触危険物質 保管条件 | 「10. 安定性及び反応性」を参照。 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。 | |
| | 容器包装材料 | 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。 | |
| この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 | | 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼に入れないこと。 | |
| 取扱い後は手足・顔などを石鹼でよく洗い、洗眼、うがいをするとともに衣服を交換すること。 | | 取扱い時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯すること。 | |
| かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。 | | | |

8. ばく露防止及び保護措置

| | | |
|-------------------------|-----------------|---------------------------------------|
| 管理濃度 | 未設定 | |
| 許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標) | | |
| | 日本産衛学会 (2009年版) | フサライド 10mg/m ³ |
| | ACGIH(2010年版) | TWA 100 mg/m ³ (エチレングリコール) |

| | | |
|------|------------|---|
| 設備対策 | | 取扱いについては、出来るだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。 |
| 保護具 | 呼吸器の保護具 | 防じんマスク |
| | 手の保護具 | 不浸透性手袋 |
| | 眼の保護具 | 側板付き眼鏡またはゴーグル型保護眼鏡 |
| | 皮膚及び身体の保護具 | 長袖の作業衣・長靴 |
| 衛生対策 | | 取扱い後は手足、顔などを石鹼でよく洗い、洗眼、うがいをするとともに衣服を交換すること。 取扱い時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯すること。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | | |
|-------|----|------------|
| 物理的状態 | 形状 | 水和性粘稠懸濁液体 |
| | 色 | 類白色 |
| | pH | 7.1(×1) |
| 比重 | | 1.14(25°C) |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---|
| 安定性 | 通常貯蔵・取扱いにおいて安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | 情報なし |
| 避けるべき条件 | 加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するおそれがある。 |
| 危険有害な分解生成物 | 通常条件下では生成しない。 加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するおそれがある。 |

11. 有害性情報

| | | | |
|------|------------------|------------------|----------------|
| 急性毒性 | 経口 | ラット | 雄 1,701 mg/kg |
| | | LD ₅₀ | 雌 2,073 mg/kg |
| | マウス | 雄 | >1,839 mg/kg |
| | | LD ₅₀ | 雌 >2,243 mg/kg |
| | 経皮 | ラット | 雄 >2,000 mg/kg |
| | | LD ₅₀ | 雌 >2,000 mg/kg |
| 吸入 | ラット | 2.3 mg/L | |
| | LC ₅₀ | | |

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性
混合物の成分の眼に対する重篤な損傷／眼刺激性一区分2Aの濃度合計が20%のため眼に対する重篤な損傷／眼刺激性一区分2Aとした。

生殖毒性
混合物の成分の生殖毒性一区分1Bの濃度が5%のため生殖毒性一区分1Bとした。

特定標的臓器毒性(単回
暴露)

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回暴露)－
区分1(呼吸器)の濃度が5%のため特定標的臓器
毒性(単回暴露)－区分2(呼吸器)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回暴露)－
区分1(心臓)の濃度が5%のため特定標的臓器毒
性(単回暴露)－区分2(心臓)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回暴露)－
区分2(神経系)の濃度が20%のため特定標的臓
器毒性(単回暴露)－区分2(神経系)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回暴露)－
区分1(腎臓)の濃度が5%のため特定標的臓器毒
性(単回暴露)－区分2(腎臓)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回暴露)－
区分1(中枢神経系)の濃度が5%のため特定標的
臓器毒性(単回暴露)－区分2(中枢神経系)とし
た。

特定標的臓器毒性(反復
暴露)

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復暴露)－
区分1(呼吸器)の濃度が5%のため特定標的臓器
毒性(反復暴露)－区分2(呼吸器)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復暴露)－
区分1(心臓)の濃度が5%のため特定標的臓器毒
性(反復暴露)－区分2(心臓)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復暴露)－
区分1(中枢神経系)の濃度が5%のため特定標的
臓器毒性(反復暴露)－区分2(中枢神経系)とし
た。

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性

コイ LC₅₀ 65 mg/L
(96h)

オオミジン EC₅₀ 15 mg/L
コ (48h)

藻類生長 ErC₅₀ 43.8 mg/L
阻害試験 (24-72h)
(緑藻)
EbC₅₀ 20.2 mg/L
(0-72h)

水生環境有害性(慢
性)

混合物の成分の(毒性乗率×10×水生環境有害性
(慢性)－区分1)+水生環境有害性(慢性)－区分2
の濃度合計が170%のため水生環境有害性(慢
性)－区分2とした。

13. 廃棄上の注意

| | |
|----------|---|
| 残余廃棄物 | 廃棄に当たっては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 |
| 汚染容器及び包装 | 容器は関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 |

14. 輸送上の注意

| | | |
|----------------|------------------------|--|
| 国際規制 | 国連分類 国連番号 海洋汚染物質 | 該当しない 該当しない 該当しない |
| 国内規制 | | 該当しない |
| 緊急時応急措置指針番号 | | 171 |
| 輸送の特定の安全対策及び条件 | | 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。 |

15. 適用法令

| | | |
|----------------------|--|---|
| 農薬取締法 | | ホクコーブラシンゾル 登録番号 18755号 |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) | | 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) 4, 5, 6, 7-テトラクロロイソベンゾフラン-1(3H)-オン(別名 フサライド) 政令番号:261 (Z)-2'-メチルアセトフェノン=4, 6-ジメチル-2-ピリミジニルヒドラゾン(別名 フェリムゾン) 政令番号:422 |
| 労働安全衛生法 | | 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) エチレングリコール 政令番号:75 4, 5, 6, 7-テトラクロロ-1, 3-ジヒドロベンゾ[c]フラン-2-オン (別名 フサライド) 政令番号:360 |

16. その他の情報

| | | |
|-----------|------------------------------|---|
| 記載内容の問合せ先 | 会社名 担当部門 電話番号 FAX番号 | 北興化学工業株式会社 環境安全部 03-3279-5151 03-3279-5195 |
|-----------|------------------------------|---|

急性中毒に関する緊急の問合せ先
 公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合に限る)
 中毒110番 一般市民専用電話 (大阪) 072-727-2499(情報料無料)
 365日 24時間対応
 (つくば) 029-852-9999(情報料無料)
 365日 9~21時対応
 医療機関専用有料電話 (大阪) 072-726-9923(1件2,000円)

365日 24時間対応
(つくば)029-851-9999(1件2,000円)

365日 9~21時対応

医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、情報料 1件につき2,000円を徴収します。

注意事項

本データシートは作成年月日での製品情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。記載されている内容は、安全な取扱いを確保するための情報であり、いかなる保証をなすものではありません。特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた安全対策が必要となります。